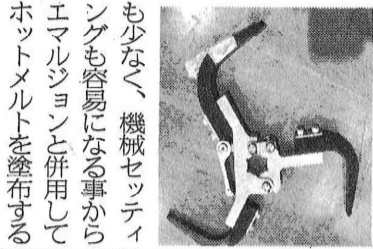
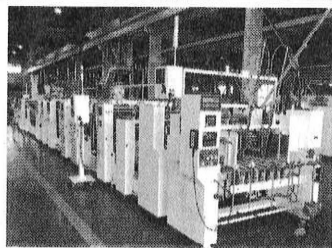


# ホットメルト接着に有効

エクシオンシリーズ グルアに新オプション

(株)日本紙工機械グループは、段ボール用ワンタッチケースグルア「Exion(エクシオン)」シリーズの「写真⑤」から、新たにホットメルト接着工程に有利な格納式プレスロールをオプション追加したほか、省力化対応の改良を施した12500モデルを今秋、大手段ボールメーカーに納入予定



格納式プレスロールは、仮折ユニットと折込ユニット搬送ベルトの渡り部分の下部にプレスロールを格納し、使用時はユニット間のベルトが跳ね上げ橋の様に、形態が変化してできたベルトとベルト間にロールが出現するもの。

「エマルジョンでは接着が難しい工程も、ホットメルトでは瞬時に接着され形状維持に必要な部品

も少なく、機械セッティングも容易になる事からエマルジョンと併用してホットメルトを塗布する製品の品種や生産量が年々増えている。しかし、ホットメルトで接着を行う場合に、塗布折込圧着を短い時間で行う必要があり、特に圧着工程では、製品形状に合わせた複数の圧着用アタッチメントが必要となる。そのセッティングや管理が煩雑になる事からユニット間のプレスロール設置を検討したが、プレスロールを常設してしまうと、底の浅い製品などは

「部品が重たくて持ち上げられなかったり、アタッチメント類など強く締めすぎて壊したり緩まなかったり、逆に、弱くて動作中外れたり締め忘れたりという問題がある。それらは、材質や構造で解決できると思うので、一つ一つ開発しながら解決を図りたい」と話す。

エクシオンシリーズは、「徹底的に使いやすいにこだわった」をコンセプトに、第一折込部、第二折込部、本折込部、トロンボーン部を標準構成し、オプションで仮折ユニットや姿勢矯正ユニットなどカスタマイズが可能。

高い再現性でセット時間を大幅に短縮でき、リピートジョブを比較したところ従来機とでは、最大50%もの時間が削減したという。速度や圧力などの調整プロセスをデジタルデータ化したほか、メインコンピュータの操作はタッチパネル式でインターフェースも直感的に使いやすい。

調整機構の見える化と調整できないものには、ボジションインジケータやスケールを配置。油脂落下対策は、搬送面に配置している駆動部品のすべてにエンジンアリングプラスチックを導入し、給油が不要になった。給紙フレームには、リニア式横移動レールを採用することで工具が要らなくなり、ボタンを押すことでフレームがロックされる仕組みになっている。

同社は現在、既存の第三世代と第四世代(現行型は第五世代)のフレーム管理コンピュータシステムを搭載したグルアに、更新型システムを開発中。今後は、省人化、環境対応に向けた開発と

既設機を使用するための機器開発をさらに続けるとし、6年ぶりとなる内覧会を2025年5月に開く予定だ。